

【研修報告】

米国胸部医学会のCHEST 2011に参加して

川 根 博 司*

はじめに

米国胸部医学会（The American College of Chest Physicians：ACCP）による CHEST 2011が2011年10月22日から26日までの5日間、米国ハワイ州・ホノルルで開催された。今回のCHEST 2011には世界中から5,000名の出席者が予定されていたようである。学会会場となった国際会議場・ハワイコンベンションセンターは、ハワイの風を感じられるオープンエア構造を持つとともに、総ガラス張りで天井の高い大胆なデザインがユニークな建物である（写真1）。

初日から参加するために、前日の21日夜に関西空港から日本航空の直行便でホノルルに飛び立った。ハワイと日本の時差は19時間であり、同じ21日にホノルル空港へ到着した。

筆者は4日目のポスターセッションにおいて、わが国の明治時代の看護教科書における喫煙／禁煙に

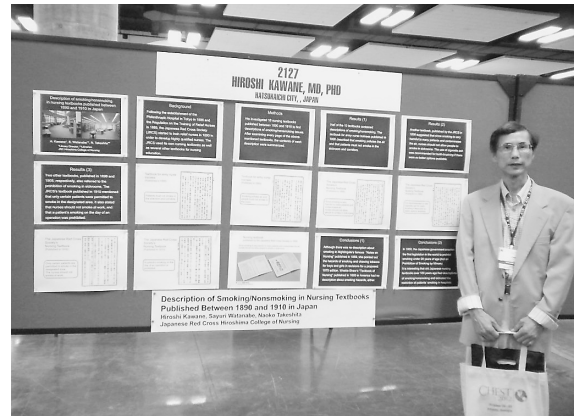


写真2 ポスター発表

関する記述について調べたことを発表した（写真2）。本稿では、米国胸部医学会（ACCP）の概要を紹介しながら、発表内容を簡単に述べる。

米国胸部医学会（ACCP）とは

ACCPは呼吸器科や循環器科など胸部専門医の学会であり、世界各国の医師がメンバーとなっていて、米国胸部学会（American Thoracic Society：ATS）とともに国際的にも名高い。毎月発行される学会誌 CHESTは歴史もあり、2011年10月で第140巻第4号を数える。わが国ではACCP日本部会が、定期学術教育講演会などを毎年催し、活動している。筆者は1987年10月27日付でフェロー（FCCP）に選ばれているが、米国で開かれたACCPへの出席は初めてである。

学会発表の内容

日本赤十字社が救護員を確保するために、1890年（明治23年）に看護婦養成を開始して以来120年が経過した。1900年（明治33年）、わが国で世界に先駆けて「未成年者喫煙禁止法」が施行されたが、当時の看護教育で喫煙についてどのように教えられていたのかに興味を持ち、明治期の看護教科書における喫煙に関する記述について調査を行うことにした。



写真1 ハワイコンベンションセンターにて

* 日本赤十字広島看護大学 kawane@jrchn.ac.jp

調査結果は2011年2月に開催された第20回日本禁煙推進医師歯科医師連盟学術総会において口頭発表するとともに、同年7月に広島で開かれた第43回日本医学教育学会大会でも報告した（川根，渡辺，竹下，2011）。

今回のCHEST 2011は日本人移民の多いハワイで開催される国際学会ということでもあり、100年余り前という昔の日本の話題も面白いのではないかと思い演題を提出した。そのタイトルは“Description of Smoking/Nonsmoking in Nursing Textbooks Published Between 1890 and 1910 in Japan”であるが、Tobacco Cessation and Prevention Postersというセッションに採択受理された。調査対象は1890年から1910年にかけて発行された看護教科書である。これら10種類の書物のすべてのページに目を通し、喫煙／禁煙に関する記述を探して抜き出した。

10種類の教科書のうち半分に喫煙／禁煙についての記述があった。1890年（明治23年）に発行された『陸軍看護学修業兵教科書』の中に、「病室および廊下において喫煙してはいけない」という記載が見られた（図1）。また、「喫煙は空気を汚染するものなので、居室内において喫煙してはいけない」との記述もあった。1896年（明治29年）発行の『日本赤十字社看護学教程』には、「喫煙は多くの患者に対して甚だ害があり且つ大気を不潔にするものなので、病室内において喫煙させてはいけない」と書かれていた。1910年（明治43年）に日本赤十字社が出した『甲種看護教程』では、「許された患者に限り一定の場所において喫煙してもよい」としているものの、「看護者は勤務中喫煙してはいけない」と明記されていた（図2）。病院の敷地内禁煙が当たり前となった現在、医療従事者は勤務中に喫煙できなくなっている。今から100年も前の看護教科書に、病院内での患者の喫煙制限や看護者の禁煙について書かれ

Textbook for army nurse trainees
(Published in 1890)

Patients must not smoke in the sickroom and corridors.

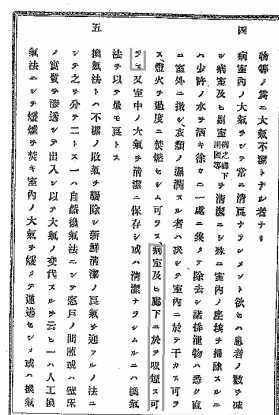


図1 『陸軍看護学修業兵教科書』（明治23年発行）

The Japanese Red Cross Society's
Nursing Textbook
(Published in 1910)

Only certain patients are permitted to smoke in the designated area.
The nurses should not smoke at work.

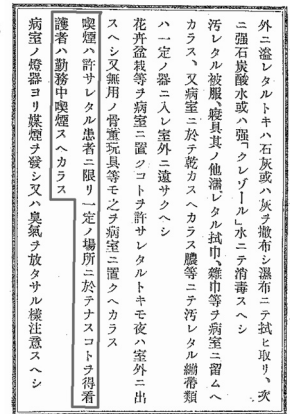


図2 日本赤十字社『甲種看護教程』（明治43年発行）

ているのは特記に値する。

なお、CHEST 2011で発表した演題の要旨は、学会誌に英文抄録が掲載されていることを記しておく（Kawane, Watanabe, Takeshita, 2011）。

おわりに

CHEST 2011は前述したように、ホノルルにあるハワイコンベンションセンターで開催された。学会会場へは宿泊ホテルから定期的にシャトルバスが出ており、それを利用して通った。ちなみに、11月12、13日両日にハワイで開かれるアジア太平洋経済協力会議（APEC）首脳会議は、ここが会場となっている。ハワイコンベンションセンターのホームページを見てみると、APECには2万人が参加予定と載っていたが、一度に最大3万人の収容人数を誇るコンベンションセンターは、総床面積が約10万2千平方メートルとのことである。

ホノルルを代表する景観といえばワイキキビーチとダイヤモンドヘッドであろう。宿泊したシェラトン・ワイキキの部屋やバルコニーから、きれいな弧を描くように広がるワイキキビーチの先に、ハワイのシンボリック存在・ダイヤモンドヘッドが見える贅沢な眺めを毎日楽しむことができた。23日・日曜日の夜は、ヒルトン・ハワイアン・ビレッジ・ラグーン・グリーンで学会が主催する屋外パーティー（One Breath Luau）に参加した（これには学会参加費595ドルとは別に、チケット代150ドルが必要であった）。まず入り口で若い男女からオーキッド（ランの花）のレイを首に掛けてもらい歓迎を受けて、テーブル・椅子が並べられた芝生の会場に入った。ビュッフェ料理を食べながら、ハワイのフラ、マオリ、サモア、タヒチの踊りなどポリネシアンショーや迫力満点のファイアー・ナイフ・ダンスを見て、本格的ハワイ伝統の祝宴・ルアウを十分に堪能し



写真3 喫煙を禁じる警告表示

た。

ホノルルのタバコ事情であるが、ハワイは州の条例により、屋外・屋内を問わず公共の場所での喫煙は厳しく制限されている。建物の出入口から20フィート（約6メートル）以内で喫煙することも禁じられている。写真3はとあるビルの玄関先で撮影したものであるが、このような警告表示をあちこちで見かけた。旅行案内書の「新禁煙法施行のお知らせ」によると、ハワイ州では2006年11月より新禁煙法が施行されており、公共の場所が全面禁煙となった。この法律は、非喫煙者の健康を受動喫煙の害から守ることを目的としている。禁煙となる公共の場所には、オフィス、レストラン、バー、ショッピングセンター、公共交通機関（バス・タクシー等）、空港、

政府施設、ホテルのロビーや通路等が含まれる。原則的にこれらの場所の出入口から20フィート（約6メートル）圏内も禁煙となる。なおこの法律に違反した場合、個人は最大50ドル、ビジネスは最大500ドルの罰金が科せられることになるという。ホノルル滞在中、学会会場はもちろんのこと、ホテル内やレストランに行っても全くタバコ臭を感じず、快適に過ごすことができた。昨年オーストラリアの国際会議に出席した際にも思ったが（川根, 2011）、タバコ規制対策への海外と日本の取り組みの違いについて大いに考えさせられた。

謝 辞

今回の国際学会に出席する機会を与えて下さいました本大学および関係者の方々に感謝いたします。

文 献

- 川根博司, 渡辺さゆり, 竹下直子 (2011). 明治期の看護学教科書における喫煙に関する記述. 医学教育, 第42巻・補冊, 77.
- Kawane, H., Watanabe, S., Takeshita, N. (2011). Description of smoking/nonsmoking in nursing textbooks published between 1890 and 1910 in Japan. Chest, 140, 443A.
- 川根博司 (2011). 第9回アジア太平洋タバコ対策会議 (APACT 2010) に参加して. 日本赤十字広島看護大学紀要, 11, 31-33.